

デザイナーのための経済コラム(43)

能登半島地震について思うこと(3)

地震に限らず、どんな災害でも発生してからの事象は概ね3段階に分離されて対応されています。「初動対応」「救助対応」「復興」です。「初動対応」は当事者にしか出来ないことです。「救助対応」は当事者から少し離れた周辺の人々の課題です。そして「復興」は社会全体の課題と考えます。

これは自然災害に限らず、交通事故、刑事事件、売買クレーム、工事クレームなど、さらにいえば戦争、暴動、普段から期待していないこと、決して起こって欲しくないことなどにもいえることだと思います。だからといって、「心配だ」「危ない」と言っただけだと「オオカミ少年」になってしまい、本当の危機が発生したときに相手にされないことがあるかもしれません。

自然災害が多い日本人の感覚からは、殺人事件が多いアメリカ、独裁者が一般市民を残酷に扱う国などの危機感覚は想像できていても実感はわかりません。逆の立場から、日本とは違った危機感のある国からは日本の自然災害の感覚は理解されても、実感としてはわかってもらえないと思います。そのことが一番わかるのがSDGsの目標内容には災害の言及、記述がありません。強いて探せば、11番目の目標「住み続けられるまちづくりを Sustainable Cities and Communities」があります。他のSDGs目標にも抽象的すぎると思う項目があります。SDGsについては別途考えて見ます。

日本と外国との比較だけではなく、日本の中でも、同じように危機感、心配事は地域によって違います。鹿児島県の桜島の火山灰の被害、北陸の降雪の面倒くささ、太平洋沿岸の津波の心配、台風銀座とよばれる地域、イノシシ、シカ、サル、クマなどの被害を受けている農家、海水温の上昇による漁獲・魚種の変化を受けている漁師、為替の変動で利益が大きく変動する輸入関連業者、輸出関連業者、少子高齢化であり方を問われる福祉行政関係者、教育行政関係者などマクロな視点で見ると、ミクロな視点で見るとでは見えてくるものが違います。

阪神淡路大地震、東日本大地震などでは見えて来なかったさまざまな課題が見えてきました。能登半島地震の場合は交通アクセスの障害とインフラ、とくに上下水道の損傷がクローズアップされました。この問題を3つの段階、「初期対応」、「救助対応」、「復興」で考えると、「初期対応」は個人、地域の課題です。あとの2つは行政の課題です。発災初期、少なくとも3日間は自力で生き延びなければなりません。近隣の人以外に誰も助けには来れません。最近、政府は1週間の備蓄を呼びかけています。

個人としてできること、しなければいけないことは防災に関する情報入手を意識を高めて、できることから防災の備えを進めることだと思います。幸いなことに40代から山行グループに入って野外行動の経験や装備は非常時の備えに役立っていると思っています。また、建築現場、工事現場に入る時の心構えも役に立っていると思います。スポーツ用具店の山行道具等は時々見に行っています。我が家の玄関わきの押し入れ収納の収納物は道具類の収納から図書類の収納に代わり、現在はパントリー・食品庫に代わりました。今まで普段あまり食べていなかったカップ麺やレトルト食品、缶詰をローテーションするために週に何度か食べるようになりました。また、ペットボトルの水の買い置きを増やし、簡易トイレ、凝固剤、ポリゴミ袋の買い置きも増やしています。このような行動が一般的になれば、住宅の設計も食品の流通構造も変わってくると考えます。エコロジーの考え方も必然的に変えなければならなくなると考えます。

個人の問題の次にあるのは近隣コミュニティーのあり方です。ここではハードとして防災道具とその管理運用です。ここではどのような人間関係を作っていくか、自由と権利、義務が課題になり、たちまち「個人情報保護」とバランスを取らなければならなくなります。新しい時代の新しい課題です。

阪神淡路大地震のあと、KIPAは被害を調査して、「耐震マニュアル」を作成しました。建築基準法も見直されました。ハードについては対応がしやすいのですが、ソフト、制度、生活様式の見直しとなると難しくなります。難しく対応を考えなければ個人も社会も持続できなくなると考えます。阪神淡路大地震のあと「防災士」という資格制度が出来ました。私は市の助成で講習をうけ令和3年に資格を取得しました。資格を取得したからといって何が変わったかと問われれば、日本に住んでいる人には常識としての「災害・防災リテラシー」が必要だと思い、そのために行動しようという意識が生まれたことと言えます。

参考

「明日を守るナビ」・・・ TV・NHK総合毎週日曜日午前10時5分～10時50分

SDGs・・・・・・ <https://ja.wikipedia.org/wiki/持続可能な開発目標>

防災士・・・・・・ <https://ja.wikipedia.org/wiki/防災士>